

# 時潮の波の

(昭和二十一年寮歌)

渋谷富業君 作歌  
寺井幸夫君 作曲

## 序

厳きびしかる道みちに仕つかへて  
限かぎりある玉緒たまのお惜おしむ  
げにさあれ深ふかき因縁えにしの  
魂たまゆるる生命いのちの饗宴うたげ  
汲くまざらめや残のこの月つきに  
旅たびの朝早あさはやくは明あけぬ

## 二

孤窓こそうに流ながる星屑ほしづに  
無辺むへんの調律訪しらべへば  
測はかりも知らに底そこつひゆ  
言ことの葉洩はもれて伏ふし祈いのる  
奇あやしく貴たかき生命いのちをば  
友情ななを讀たんふ歌声うたこえの  
溶とけ行ゆく方かたに馳はするかな

## 四

宿命さだめの道みちを行ゆく身みにも  
友ともを誇ほこらん花筵はなむしろ  
銀燭ぎんしやく頬涙ほなみを照あらす宵よい  
沈黙しじまに語かたる歡喜よろこびよ  
心こころを交かわひ思おもひ酌しやくみ  
団欒だんらんにふるふ共鳴ともなりは  
胸むねの小琴をこを掻かき鳴ならす

## 結

近ちかきかな榆陵をかを去さる日ひは  
還かえり来こぬ足跡あと愛かなしみて  
ひたぶると打笑うちえむ時ときぞ  
求もとめつつ得うべからざりし  
秀達うのはしき真理まことの道みちは  
はろかなり我等われらが前途ゆくて  
進すすまざらめや

## 三

朽葉くはゆらぎて湧わき出いづる  
楡はやしの林はやしの真清水ましみずに  
己おのれを責せめて泣なく友ともの  
孤杖こちやうを運はこぶ逍遙さうようや  
遠とおき誓ちかひの日ひを偲しのび  
虚おなしき春はるに嘯うたげば  
淡あわれし影かげの寂寥さびしうよ

## 五

北斗頭ほくとずしやう上に影かげ冴さえて  
神秘くしひの息いきに吹ふかれつつ  
肩組かたくみ歌うたふ旅たびの子こを  
染そむる伝統でんとうの篝火かがりびよ  
暮くるるに早はやき青春はるの日ひの  
追懷おもひを込こむる此この盃つぎを  
汲くまん今宵こよいの記念祭きねんさい